

## 「小岩井農場施設」が重要文化財指定

小岩井農牧株式会社（本社：東京都千代田区）が所有する、小岩井農場（所在地：岩手県岩手郡雫石町丸谷地 36-1）内の歴史的建造物「小岩井農場施設」21棟が、2月23日付官報の文部科学省告示で国の重要文化財に正式指定されました。これは10月21日（金）に開催された文化審議会の答申を受けたものです。

小岩井農場施設は、「大規模な洋式農法を目指して設立された農場の基幹施設で、時代毎の最新技術を積極的に導入し、改良を重ねた農場システムを示す一連の建造物群が良好な状態で保存されている。我が国における近代農場の発展過程を知る上で重要であり、高い歴史的価値を有している」と評価をいただきました。

今回指定となる21棟は、そのほとんどが現役で、当初と同じ目的で使用され続けている建物も多く、リビングヘリテージ（生きている文化財）としての価値も有しています。小岩井農牧株式会社では、今後もこれら建造物の形状を極力変えずに保存するとともに、継続して使用して参ります。また、これら建造物も含め、明治期から培われた農業遺産としての景観も保全いたします。

### 【指定建造物一覧】

- ①本部事務所 明治36年（1903）建設 建築面積 252.5 m<sup>2</sup>  
小岩井農場の中核を担い続ける現役の事務所。宮沢賢治の長編詩「小岩井農場」にも登場する。
- ②本部第一倉庫 明治41年（1908）建設 建築面積 118.2 m<sup>2</sup>  
本部附属の倉庫として建設。雨の日でも作業できる広い下屋が特徴。現在も倉庫として使用中。
- ③本部第二倉庫 明治31年（1898）以前建設 建築面積 132.2 m<sup>2</sup>  
最古の台帳（明治32年）に記載があり、確認される中では農場内最古の建物。倉庫として使用中。
- ④乗馬厩 昭和11年（1936）建設 建築面積 320.6 m<sup>2</sup>  
自動車のない時代、移動のための乗用馬や馬車曳用の馬を飼養した。16頭収容することができる。
- ⑤倶楽部 大正3年（1914）建設 建築面積 633 m<sup>2</sup>  
来客の応接・宿泊、従業員の集会施設として建設。一部洋室の和風建築。現在も会議室等に使用。
- ⑥四階倉庫 大正5年（1916）建設 建築面積 515.6 m<sup>2</sup>  
木造四階建ての巨大倉庫。家畜飼料となる穀物類乾燥庫として建設。電動昇降機が設置されていた。
- ⑦旧耕耘部倉庫 明治38年（1905）建設 建築面積 324.3 m<sup>2</sup>  
家畜の飼料を作る耕耘（こううん）部という部署の倉庫として建設。四階倉庫と連動して使用。
- ⑧～⑩玉蜀黍小屋（四棟） 昭和4年（1929）建設 建築面積 99.2 m<sup>2</sup>  
明治末頃建設 建築面積 73.6 m<sup>2</sup>  
大正5年（1916）移築 建築面積 80.3 m<sup>2</sup>  
大正5年（1916）移築 建築面積 78.6 m<sup>2</sup>  
牛の飼料となるトウモロコシ（デントコーン）の乾燥・貯蔵用に建設。現在は木材乾燥用に使用。
- ⑫一号牛舎 昭和9年（1934）建設 建築面積 478.5 m<sup>2</sup>  
当時最新鋭のスタンション式を取り入れた搾乳牛舎。現在も68頭収容の搾乳用牛舎として使用。
- ⑬二号牛舎 明治41年（1908）建設 建築面積 522.2 m<sup>2</sup>  
病畜用の牛舎として建設。大正8年に現在地へ移築後、乳牛が子牛を生む分娩用牛舎として使用。
- ⑭三号牛舎 昭和10年（1935）建設 建築面積 1184.1 m<sup>2</sup>  
子牛と種牡牛の育成用に設計された100m近い巨大な牛舎。牛の月齢にあわせた多様な飼育室が特徴。
- ⑮四号牛舎 明治41年（1908）建設 建築面積 692.6 m<sup>2</sup>

産室を備えた搾乳牛舎として建設。現在はすべて搾乳用に改造。一階は飼育室、二階は牧草貯蔵庫。

⑯種牡牛舎 大正 6 年 (1917) 建設 建築面積 249.2 m<sup>2</sup>

優秀な乳牛育成のための繁殖の元となる、エリート種牡牛を飼養する牛舎。平成 15 年頃まで使用。

⑰一号サイロ 明治 40 年 (1907) 建設 建築面積 25.2 m<sup>2</sup>

⑱二号サイロ 明治 41 年 (1908) 建設 建築面積 26.7 m<sup>2</sup>

レンガ造の巨大サイロ。日本に現存する最も古いサイロといわれる。昭和 50 年代まで使用。

⑲旧育牛部倉庫 明治 31 年 (1898) 以前建設 建築面積 158.6 m<sup>2</sup>

本部第二倉庫と同様、確認される中では農場内最古の和小屋組の建物。倉庫として使用中。

⑳秤量剪蹄室 昭和 11 年 (1936) 移設 建築面積 35.5 m<sup>2</sup>

牛の体重測定や爪切などを行った施設。足を痛めると健康状態に影響が出るため削蹄は重要な作業。

㉑天然冷蔵庫 明治 38 年 (1905) 建設 建築面積 242.2 m<sup>2</sup>

小山を掘って作ったレンガ造の貯蔵庫。電気を使用せず、自然の力だけで内部温度を約 10 度に保つ。

※文化財の名称が文化庁発表のものと異なっていますが、現在の弊社内の呼称を使用しています。

### 【小岩井農場の歴史】

1891 年 (明治 24 年) 井上勝 (鉄道庁長官) が小岩井農場を開設

1899 年 (明治 32 年) 岩崎久彌 (三菱第三代社長) が小岩井農場を継承・牛乳の市販開始

1901 年 (明治 34 年) ヨーロッパより優良種畜を輸入し、本格的に畜産事業を開始

1902 年 (明治 35 年) 発酵バター和市販開始・育馬事業開始

1938 年 (昭和 13 年) 小岩井農牧(株)設立

1949 年 (昭和 24 年) 育馬事業終息

1950 年 (昭和 25 年) この年までに 1,039 町歩の農場用地を農地解放

1962 年 (昭和 37 年) 種鶏事業開始

1967 年 (昭和 42 年) 観光事業開始

1972 年 (昭和 47 年) 緑化エンジニアリング事業開始

1976 年 (昭和 51 年) 乳業事業部門を分離し、キリンビール(株)との合弁で小岩井乳業(株)を設立

1996 年 (平成 8 年) 場内建造物 9 棟が国登録有形文化財となる

2016 年 (平成 28 年) 場内建造物 21 棟が「小岩井農場施設」として国指定重要文化財となることが決定

### 【一般の方の文化財見学について】

「小岩井農場施設」は、ほとんどが生産現場である非公開エリアにありますので、一部を除き、自由にご見学いただくことはできません。見学を希望される方は、小岩井農牧(株)観光部 (小岩井農場まきば園) で開催するバスツアーにご参加ください。尚、衛生上の観点などから、外観の見学が主で、内部の見学はできませんのでご了承ください。

#### 《文化財に関するお問い合わせ》

小岩井農牧(株)経営開発室 019-692-6027 (野沢・大西) (不在時 090-8878-3022 (辰巳))

#### 《バスツアーに関するお問い合わせ》

小岩井農牧(株)観光部 (小岩井農場まきば園) 019-692-4321 (高橋・高山・武蔵)

【文化財の写真】



①本部事務所



⑦旧耕耘部倉庫



⑮四号牛舎



②本部第一倉庫



⑧⑨手前 玉蜀黍小屋一、奥 二



⑯種牡牛舎



③本部第二倉庫



⑩⑪手前 玉蜀黍小屋三、奥 四



⑰⑱右 一号サイロ、左 二号サイロ



④乗馬厩



⑫一号牛舎



⑲秤量剪蹄室



⑤倶楽部玄関



⑬二号牛舎



⑳旧育牛部倉庫



⑥四階倉庫



⑭三号牛舎



㉑天然冷蔵庫